相生市人権教育・啓発情報紙

ひとみ

発　行
相生市教育委員会
（人権教育推進室）
電話２３－７１４５
平成２６年５月号
（第２１号）

平成 26 年度人権教育・啓発活動年間テーマ
「みんなちがって みんないい」
（多様性の容認）

私と小鳥と鈴と　　金子　みすゞ

私が両手をひろげても、
お空はちっとも飛べないが、
飛べる小鳥は私のように、
地面（じべた）をはやくは走れない。

私がからだをゆすっても、
きれいな音は出ないけど、
あの鳴る鈴は私のように
たくさんの唄は知らないよ。

鈴と、小鳥と、それから私、
みんなちがって、みんないい。

「金子みすゞ童謡全集」（ＪＵＬＡ出版局）より

金子みすゞ

〔1903(明治 36)年
～1930(昭和5)年〕
大正時代末期から昭和時代初期にかけて活躍した日本の童謡詩人。本名 金子テル。

写真提供：金子みすゞ著作保存会

大正末期から昭和初期にかけて、26 歳の若さでこの世を去るまでに512編もの詩を綴ったとされる。1923年（大正 12 年）９月に『童話』『婦人倶楽部』『婦人画報』『金の星』の４誌に一斉に詩が掲載され、西條八十からは若き童謡詩人の中の巨星と賞賛された。

社会は、さまざまな価値観をもった人やいろいろな年齢、国籍の人が集まって成り立っています。自分と異なる人を変わっているからと、排除したり、認めないというのではなく、一人ひとりがお互いの違いを認め、お互いの人権を尊重する（「多様性の容認」）が大切です。

私たちは、「みんなと一緒」「みんなと同じ」であることにより、安心感をもつ傾向があります。そのことが時には、「みんなと同じでない」ということから、「異質なもの」として排除することにつながることがあります。

- 人は、それぞれ違った個性や特徴をもっています。しかし、人を個人としてではなく、「国籍」「性別」などの属性で見てしまうと、異質なものとして間違った思い込みや一方的な決めつけを生むおそれがあります。そうではなく、自分とは違う人とのかかわりが多ければ多いほど、生き方の幅が広がり豊かな生活が送れるのではないでしょうか。
- 人はだれも一人では生きていけないものです。多くの人と支え合い、多くの人とつながって生きています。一人ひとりがお互いの違いを認め、他の人の人権を守ることが、ひいては、自分の人権を守ることにつながるのです。日ごろからお互いの違いを認め合い、その上でだれもがもつ「幸せに生きたい」という願いを大切にする生き方を心がけることが重要です。

決して「みんなそれぞれ・・・」「いいやん。人は人、好きにしたらいい（好きにさせといたらいい）」というものではありませんし、「我関（われかん）せず」という考え方に結びついてしまうものであってもなりません。お互いがより望ましい方向へ進んでいけるような関わり合いを大切にしたいものです。

多様性社会における寛容度チェック

下記の①～⑧の設問について、めったにない（１）～ときどき(3)～いつも（５）の１～５のいずれのポイントに当てはまるか考え、チェックしてみてください。
最後に①～⑧の合計ポイント数を計算し、シート下の判定欄をご覧ください。

	めったにない		ときどき		いつも
	1	2	3	4	5
① わたしと立場の違う人々（たとえば外国人、障がいのある人、異性、性的マイノリティなど）と接するとき、その人から学ぶことがたくさんあると思っている。					
② 自分が話すより、人の話を聴くように努めている。					
③ 異文化交流の場（違う国の人、違う年齢、障がいの有る無しなど）に参加する機会を積極的に求めている。					
④ 対立や誤解があった時は、攻撃的、消極的のいずれでもなくバランスよく相手とコミュニケーションをとっている。					
⑤ 人の能力を雄弁さや見かけ、成果のみで測らないようにしている。					
⑥ 自分の持つ偏見を意識している。					
⑦ 相手の長所を見つけ、どう活用するかを考えている。					
⑧ さまざまな団体、個人とのつながりや協力関係をつくっている。					

※ 性的マイノリティ：同性愛や性別に違和感のある人、性同一性障がいの人など。人は異性を愛するのが当然、心と体が違うことなどありえない、性別は男と女しかないと信じて疑わない多数者からみて少数者（マイノリティ）という意味

森田ゆり「多様性トレーニング・ガイド」（解放出版社／2000 年）を参照し作成

判 定 欄　設問１～８までの合計点が

○３０以上４０ポイント以下の方：さまざまな違いを尊重し、豊かな出会いを多く体験できているリーダー的存在のようです。

○20 以上３０ポイント未満の方：日常生活の多くの場面で、周りの方と友好に、お互いを尊重しながら生活しようとしています。

○10 以上２０ポイント未満の方：「違いを認め合う心」をさらに高めていく可能性が残っているように思われます。

○１０ポイント未満の方：自分の考えや経験での判断が中心で、新たな出会いや発見を逃しているかも知れません。

「市民人権学習支援事業」を本年度も実施します。

1　目的

(1)相生市を「人権尊重の文化に満ちたまち」にするため、市民の人権についての学びの活動を支援する。

(2)人権学習を生涯学習の一つとして位置づけ、より多くの市民に対して学ぶ機会を提供する。

2　支援対象

相生市に在住・在勤する原則 10 名以上のグループによる学習に対して運営費、講師謝金などを補助

3　支援対象とする事業内容

人権（女性･子ども･高齢者･障がいのある人･同和問題･外国人など）をテーマとした以下の学習活動

〇車座勉強会　　〇人権啓発用ビデオを活用した学習

〇講演・講話　　〇フィールドワーク など

平成２５年度は、のべ１０８グループ、３，７８４人の方に参加いただきました。
本年度も上記内容で実施の予定です。
詳細は人権教育推進室
（電話２３－７１４５）まで
お問い合わせください。

現在、課題であるスマートフォンの正しい使い方を子ども、保護者が一緒に学習しました。(若狭野小学校)

子ども会、自治会が合同で三世代の学習会を実施しました。(古池・向陽台地区)

平成２６年度予定の主な人権啓発事業について

◇「人権のつどい」　8月6日（水）１８：００～　相生市民会館中ホール

講師　梅原　司平さん（シンガーソングライター）入場無料

「愛あればこそ　ー求めて止まない詩（うた）がある－　」

梅原さんの代表作「折り鶴」は、原爆投下で犠牲になった多くの方々への鎮魂の祈りを込めて、広島市内の小中学校で歌われています。

◇みんな集まれ!!「きらきら多様性体験プログラム」参加無料

11月9日（日）１０：００～１６：００　羅漢の里

兵庫県立人と自然の博物館から移動博物館車「ゆめはく号」がやってきます。

・博物館に収蔵してあるさまざまな標本（昆虫や植物など）

・博物館研究員による体験ワーク　など

東日本大震災以降、被災地支援活動でも「ゆめはく号」は活躍しているそうです。

◇「ふれ愛コンサート」11月30日（日）１５：００～（予定）相生市民会館中ホール

出演　町田　浩志さん（つながりあそび・うた研究所）入場無料

◇その他、本紙「ひとみ」発行（5月、8月、１１月、2月の4回）等を予定しています。

「まちかどじんけん特派員」からのお便り

「ご近所が集まってのミニパーティー（？）開催」

相生市内在住の 46 歳男性Ａさんからお話を聞きました。

年末にご近所４軒の家族が高圧洗浄機を持ち寄り、カーポートの屋根の掃除をされたとか・・・。真冬の水を使った作業でしたが、終わった後は大変すがすがしく、心温まる時間となったということでした。

普段から一緒にお酒を飲んだり、家の前でおしゃべりをしたりして楽しんでいたということがきっかけだったそうです。普段そこで出る話は、お互いの趣味のことや地域の気になる話が多いそうです。

「あそこの交差点、交通量が増えて、ちょっと危ないな。」と気になる箇所のチェックをしたり、

「最近、あそこの子大きな音を立てて車で走って行ってるけど、調子どうなんだろう。」等々。

ある日、

「カーポートの上に生えている苔が気になるね。」

「そうなんや、うちも前から気になっていたんや。」

「うちに高圧洗浄機あるんやけど。自分とこだけすると周りに迷惑がかかるのでできなかった。」

「一軒でせんと、みんなでしたらいいやん。」

ご近所の最年長 70 代の男性は

「こんな関係があると、もしわしが先死んでも、妻を残しても安心やわ…。」と話されているとか。

どうして、そんな関係ができたのかＡさんに尋ねるとまずは、ご夫人方が先にコミュニケーションをとるようになり、「あそこのお父さん、〇〇が趣味らしいで・・・」といった情報を得ると、そのご主人も休みの日に「今日は何作ってるの？」と声をかけ始められたそうです。

「子どもが小さい時から、近所の人にきちんとあいさつせなあかん」と言い続け、また自分もその姿を無意識のうちに見せてきたのかも知れないとおっしゃっています。

先程の最年長 70 代の男性は、「わしは、リタイアして日中家におるから、力仕事など役に立てることがあればできる範囲でやらしてもらっておくわ」とおっしゃっているそうです。

ご夫人方の小さなつながりが、街の中に強い絆を紡いでいったようです。

近くには新築の家も建設されているので、新たにメンバーに加わってもらいたいという願いも語っておられました。

「つながりあい」を日頃から大切にされている市民の方々の貴重なお話に大変感銘を受けました。相生市の将来像「いのち輝き　絆でつなぐ　あいのまち」の実現に向け、さらにお互いの人権が尊重され、ますます「住んでみたい街、住み続けたい街」となるよう教育・啓発活動を進めていきたいと思います。

上記のような、まちかどの「心あたたまる」出来事、ほっとな情報をご紹介ください。ご連絡方法は手紙、ＦＡＸ、メールでお願いします。ご応募いただいた方には、粗品（啓発用品）を進呈いたします。

《 連絡先 》　〒678-0031　相生市旭一丁目３番１８号
FAX　0791-23-7148　ﾒｰﾙ　jinkenkyoiku@city.aioi.hyogo.jp

「２０１４年こころカレンダー」より

平成25年度
人権標語入選作品

差し出そう!!

小さな手でも

希望の光

双葉小学校　明石麻鈴

まちの人権トピックス

兵庫県いじめ防止標語コンテスト全国賞受賞

第３回『兵庫県ＰＴＡ協議会　兵庫県いじめ防止標語コンテスト』において全国賞を受賞（合計 20,245 点の中から小学生・中学生各１名受賞）されました。

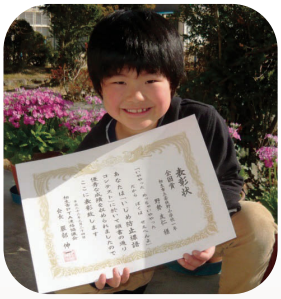
「いややった　めっちゃいややった　だから　ぼくは　せえへんよ」

若狭野小学校　１年　野勢　友仁くん

その他優秀賞には下記の６名が選ばれました。

「あそびでも　あいてがいやなら　いじめだよ」　青葉台小学校　２年　福永　希望
「いいかげん　いじめと言う言葉　なくそうよ」　那波小学校　２年　森本　羚葦
「みえたら　いいね　心のきずも」　双葉小学校　２年　井筒　日陽
「メールやインターネット　人をきずつけるために　あるんじゃないよ」若狭野小学校　４年　西脇　未空
「冗談の　つもりがいじめの　原点だ」　双葉中学校　１年　八木　康佑
「思いやり　みんなが持てば　いじめゼロ」　那波中学校　２年　原田　実空　※学年は平成 25 年度時点

受賞した野勢くんにインタビューしてきました。



○県の表彰状をもらってどんな気持ちでしたか？
「うれしい！！お母さんが、また額をかってくれると言っていたので大事にしたい。」
○全国の表彰では大きな額に入ってもらえると思うよ。
標語の気持ちとあわせて、標語も大事にしてほしいね。
「うん、忘れないようにする。」
○標語は、一人で考えたの？
「うん、ぼく一人で考えた。」
○どうしてこんな言葉を思いついたの？
「前に帽子を隠されたり、戦いごっこで嫌な気持ちになったことがあったから…。」
※　クラスで、今まで友だちどうしでいやなことがなかったか話し合いを持ったことがあり、その時の学習からこの標語を思いついたそうです。
○その時のいややった気持ちから考えたんだね。
「『いや』ではなくて『めっちゃいややった』」
○そんなにいやだったんだ。だから、僕みたいな気持ちを他の人にはさせたくないということなんだね。
「うん。」（大きくうなずいてくれました）
○これからもますます立派な人になってくださいね。
「うん。」（さらに大きくうなずいてくれました）

野勢くんの得意なことは、算数と絵を描くことだそうです。それは、以前お父さんに絵のかき方を教えてもらったことがあり、そのことがきっかけで得意になったそうです。表彰式にはお父さんとお母さんと一緒に参加されたそうです。若狭野小学校では、この表彰を機会にさらに道徳の授業でいじめの問題を学習したりされたようです。

「いじめ」は大小に関わらずどこにでも起こりうる問題です。小さなうちから考え、小さな芽で食い止めていく。そこには、今回のようにＰＴＡ（保護者）の皆様の関心が大変重要に思われます。引き続きご協力をよろしくお願いいたします。

平成 26 年度おすすめ 人権教育・啓発用ビデオの紹介

企画：兵庫県

ヒーロー （34 分）

近年、社会問題となっている「無縁社会」と呼ばれる状況に対し、私たちは何ができるのでしょうか。

主人公の行男は、あるきっかけから地域と関わるようになり、近所の高齢者や家族と出会っていきます。

傍観者としてではなく、主体的に行動していくことで、新たな地域のつながりを結んでいく大切さを感じていただける作品です。

あなたの偏見（へんけん）、わたしの差別（さべつ） （30 分）

人権という言葉はよく耳にしますが、自身の問題として考える機会は少ないのではないでしょうか。

この作品では、ある4人の若者たちの体験と議論を手がかりに、DV(ﾄﾞﾒｽﾃｨｯｸ・ﾊﾞｲｵﾚﾝｽ)や自死などの4つの問題について考えていきます。

マザーズ ハンド （19 分）

学校の授業で母親の仕事について作文を書くことになった愛理（小6）は母親の職業に対して、恥ずかしさを感じていました…。

ある家庭の姿から身近にある偏見や差別に目を向け、誰もが幸福に生きていく権利を持っていることを考える作品です。

家庭（かてい）の中（なか）の人権（じんけん）

生（う）まれ来（く）る子（こ）へ （25 分）

「家庭の中の人権」に目を向け、祖父母と孫夫婦の会話をとおして、私たちの身の回りにある育児や介護などの人権課題が取り上げられています。

家庭の中で人権の尊さについて語り合い、伝えていくことは、すべての『いのち』を大切にすることでもあります。そのことに気づき、行動することの大切さが描かれています。

ひとみ輝（かがや）くとき （35 分）

『いじめ』は命にかかわる問題です。子どもの世界で起こっているいじめや虐待の問題を大人も自分に関わりのあることとしてとらえ、子どもを家庭・学校・地域が協力し合って支えていくことを願って作成されています。

やさしいオオカミ （15 分）

悪の代表・暴力の代名詞にされているオオカミ。

実は、やさしい心を持ち本当の強さを持っていたのです。いじめられ続けた気弱なオオカミが見せたやさしさ… 本当の強さとは何かを考える作品です。

「小さなヒーロー」をめざしたいものです

「無縁社会と家族」～ 生きること　つながること ～

近年、社会から孤立している人が増えてきており、孤独死等が大きな問題となっています。また、家族や地域、職場のつながり、いわゆる血縁や地縁、社縁の希薄化により「無縁社会」と呼ばれる社会状況が危惧されています。

啓発ビデオ「ヒーロー」の主人公の行男は、働き盛りのサラリーマンです。地域社会と縁を持たなかった行男が、今まで意識しなかった近所の高齢者や家族と出会っていきます。そうした体験の中で、自分の家族との絆も深めていきます。「無縁社会」の中で、地域で起こる身近な人権問題に対し、傍観者としてではなく主体的に行動することで、新たな地域のつながりを結んでいく大切さを実感していただくことのできるおすすめのドラマです。

そのような中、兵庫の誇る教育者東井義雄先生が、身近なところで、小さな一歩を踏み出す気持ちの大切さを考えさせる詩をわたしたちに残してくださっています。

「小さい勇気をこそ」　東井　義雄

挿絵：濱本幸男

人生の大嵐がやってきたとき
それがへっちゃらで乗りこえられるような
大きい勇気もほしいにはほしいが
わたしは
小さい勇気こそほしい

わたしの大切な仕事をあとまわしにさせ
忘れさせようとする小さい悪魔がテレビのスリルドラマや
漫画にばけてわたしを誘惑するとき
すぐそれがやっつけられるくらいの
小さい勇気でいいから
わたしはそれがほしい

もう五分くらいねていたっていいじゃないか
けさは寒いんだよと
あたたかい寝床の中にひそみこんで
わたしにささやきかける小さい悪魔を
すぐやっつけてしまえるくらいの
小さい勇気こそほしい

明日があるじゃないか
明日やればいいじゃないか
今夜はもう寝ろよと
机の下からささやきかける小さい悪魔を
すぐやっつけてしまえるくらいの
小さい勇気こそほしい

紙くずがおちているのを見つけたときは
気がつかなかったというふりをして
さっさといっちまえよ
かぜひきの鼻紙かもしれないよ
不潔じゃないかと呼びかける
小さい悪魔を
すぐやっつけてしまえるくらいの
小さい勇気こそわたしはほしい

どんな苦難ものり切れる
大きい勇気もほしいにはほしいが
毎日小出しにして使える
小さい勇気でいいから
それがわたしは
たくさんほしい
それに
そういう小さい勇気を軽蔑していては
いざというときの
大きい勇気もつかめないのではないだろうか

東井　義雄(とおい　よしお)

明治 45 年兵庫県但東町に生まれる。
昭和 7 年姫路師範学校を卒業、豊岡小学校に着任。
以後、但東町内の小学校に勤務、32 年『村を育てる学力』で反響を呼ぶ。
34 年但東町の相田小学校校長に就任。高橋中学校長を経て 39 年八鹿小学校校長に着任。
41 年より『培其根』を発行。47 年定年退職し、兵庫教育大学大学院、姫路学院短期大学講師などを務める。
平成 3 年死去。享年 79 歳。
「平和文化賞」（神戸新聞社）、「教育功労賞」（兵庫県・文部省）、「ペスタロッチ賞」（広島大学）、「正力松太郎賞」（全国青少年教化協議会）などを受賞

「おとなの人権教室」

このたび、文部科学省が道徳教育の一層の充実に資するよう、「私たちの道徳」を作成し、全国の小・中学校に配布します。「私たちの道徳」は平成 14 年度から道徳教育教材として全国の小・中学校に配布されてきた「心のノート」を全面改訂し、充実が図られたものです。

その中の小学校３･４年生版に相生市の「ど根性大根」のことも取り上げられていますので紹介します。「命を感じて」をテーマに動物や植物のもつ力強く成長し生きようとする力を考える内容です。あわせて人も助け合いながら一生懸命生きていることを学びます。

「わたしたちの道徳」（小学校３・４年生用）（文部科学省）から一部抜粋

自分の番 いのちのバトン

相田みつを

父と母で二人
父と母の両親で四人
そのまた両親で八人
こうして数えてゆくと
十代前で千二十四人
二十代前では・・・・・・？
なんと百万人を越すんです
過去無量の
いのちのバトンを
受けついで
いま、ここに
自分の番を生きている
それがあなたのいのちです
それがわたしのいのちです

「しあわせはいつも」（文化出版局より）

みなさんは「いのち」について考える機会がありますか。多くの犠牲者が出たフィリピンや伊豆大島の台風被害は記憶に新しく、事故や事件に巻き込まれて「いのち」を失うこともあります。また、自殺の問題も依然深刻な状況です。

このような「いのち」に関わる問題は多くありますが、一方では、互いに支え合って「いのち」を守る取組も行われています。

生きることの素晴らしさについてあらためて考え、かけがえのない「いのち」を見つめ直すことが必要かと思われます。人権の基盤である生命を大切にする心を機会をとらえて考え、伝えていきたいものです。